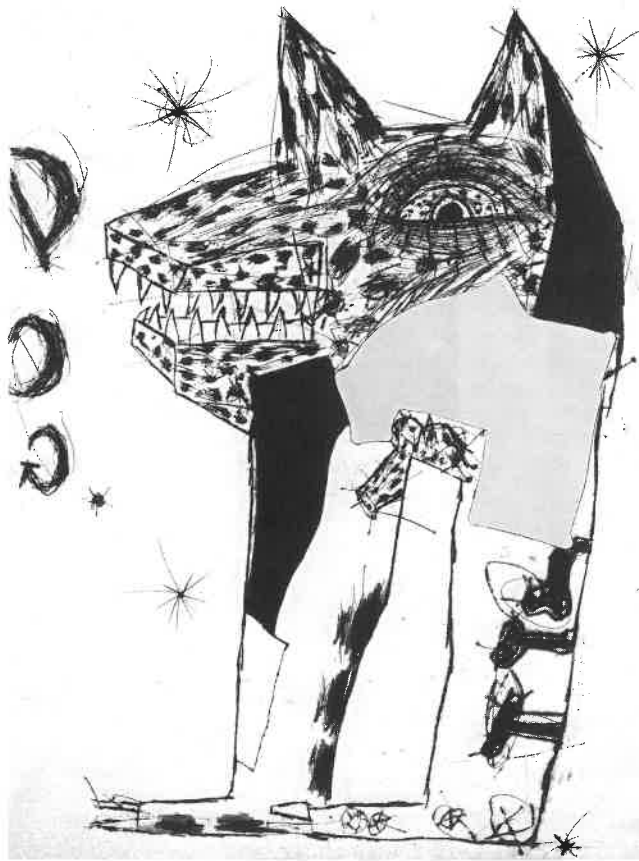




第25号  
 編集発行／碧南市  
 哲学たいけん村  
 無我苑  
 所在地／碧南市坂口町3-100  
 〒447-0087：TEL. 0566-41-8522  
 ：FAX. 0566-41-7761



**吉岡 弘昭 (よしおか ひろあき)**

1942年 名古屋市生れ。

1963～1968年

二科展、毎日仏政府留学コンクール展、毎日現代日本美術展コンクール部門に出品

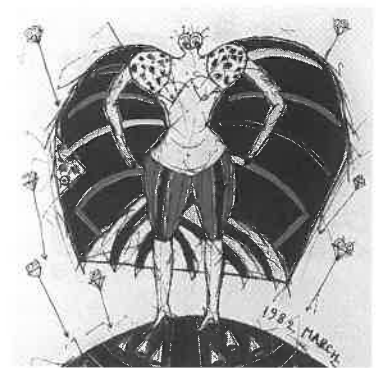
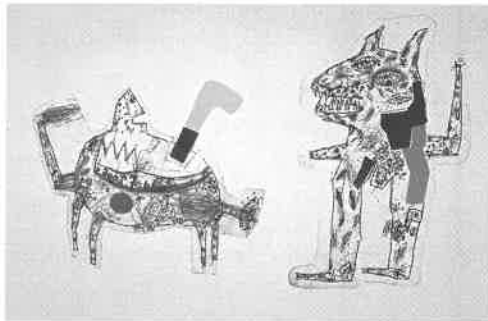
1970年から現在まで

銅版画、水彩ドローイング、アクリル油彩などの個展発表を大阪フォルム画廊（名古屋、大阪、東京）、山木美術（大阪）、ピナール画廊（東京）、ギャラリーユマニテ（名古屋、東京）、ギャラリー・グラフィカ（東京）、シロタ画廊（東京）、ギャラリーヴィヴアン（東京）、77ギャラリー（東京）、ギャラリー砂翁（東京・日本橋）、調布画郎（東京・調布）、ギャラリーAPA（名古屋）、ギャラリーDECO（名古屋）等を中心に全国各地で開催。

**瞑想回廊第二十六回企画展示**

**『犬のまなざし・パタフィジックの夢』 吉岡弘昭展**

平成十八年八月二十九日（火）～十月二十二日（日）



## 作家・吉岡弘昭氏に聞く

Q 今回の企画展は、題名に「犬のまなざし・パタフィジックの夢」とありますが？

A 私の作品は、犬をモチーフにしたものや月や宇宙船などをモチーフにしたものが多い。何ものにもとらわれない犬の視線から人間社会を見つめ直すことも必要との思いがある。

Q 銅版画の作品が多いですが、銅版画の魅力は？

A 木版画と違い彫ったところにエッチングインクが入るので、色の部分が盛り上がる。このようにして表現される銅版画ならではの色の美しさ、鮮やかさが魅力であり、みなさんに見て欲しいところ。

Q 無我苑での展示にあたって一言お願いします。

A 一度の展示で50点もの銅版画に触れる機会は、東京や大阪ではあるかもしれないが、地方で開催される機会はめったに無いと思う。非常に希な企画展なので多くの方に見ていただきたい。特に子供に見てほしい。そして、「あっ、ボクもはじめてみよう」と思ってもらえればとてもうれしい。

# 証信の遺品

## 機関誌「無我愛」他

明治三十七年八月、霊的体験により「無我の愛」を悟った証信が東京巢鴨の大日堂で無我愛運動をはじめた。その活動の一環として、明治三十八年六月一〇日に機関誌『無我の愛』を創刊した。

創刊号には「発刊の序」と題し、証信の発刊に至る考えが記されている。

### 発刊の序

我々は、既に無我愛の大道を確信して、自ら絶対的幸福の境地に至ることを得ました。顧みれば世を挙げて、滔々として我執憎悪の巷に転々として、迷い・苦悩かつその行き着くところを知らない。我々は、空しくこの惨状を見過ごすことを忍びず、ここに決然として奮起し、真理

の旗を掲げ、堂々と世間に主張したいと欲する理由である。(後略)

この後、機関誌『無我の愛』は、証信の東本願寺に対する僧籍返上や真宗大学退学を記した、第十号は大きな反響を呼び、無我愛運動の拡大と共に急速に発行部数を増やしていった。しかし、翌年三月証信は「修業未熟」を理由に突然無我苑を閉鎖し、機関誌の発行も止めてしま

う。その後、明治四十三年、『無我の愛』の後継誌となる『我生活』を発刊、第二次『無我の愛』、『精神運動』、第三次『無我の愛』、『愛聖』、『愛と真』、と名前かえつつ発刊と休刊を繰り返して、西端に無我苑の建物が建てられた翌年の、昭和一〇年二月に第四次『無我愛』の発刊に続く。第二次世界大戦中の紙の配給不足による休刊を挟みつつ発行し続けるものの、昭和三四年、伊勢湾台風による無我苑の被害が甚大であったことによる休刊



『無我の愛』創刊号

を最後に、機関誌の発行も終わりとなる。この時証信八三歳。断続的ながら、足掛け五五年の間、機関誌を発行し続けたことになる。

尚、これらの機関誌は、一九八六年、不二出版より復刻版『無我の愛』として一三巻に編集されている。

### 証信の発行した機関誌一覧

『無我の愛』

(明治三十八年六月〜三十九年二月)

『我生活』

(明治四十三年四月〜一二月)

『無我の愛』(第二次)

(明治四十四年一月〜四十五年三月)

『精神運動』

(大正九年一月〜一〇年七月)

『無我の愛』(第三次)

(大正一〇年四月〜一一年一二月)

『愛聖』

(大正一二年六月〜一三年八月)

『愛と真』

(大正一四年六月〜一五年五月・一五年七月・昭和三年一月・五年七月・六年一月)

『無我愛』(第四次)

(昭和一〇年二月〜一九年三月)

『無我愛』(第五次)

(昭和二二年六月〜三四年一月)

### 参考図書

『無我の愛』 不二出版 一九八六年

『無我の愛』 加藤良平編集・訳

一九八九年

### 現代クロアチアグラフィック アート展を開催しました

平成十八年六月十三日〜七月二日

昨年開催された愛・地球博の一市町村一國フレンドシップ事業で碧南市のパートナー国として参加したクロアチア。万博が終わっても、その交流が続く、当苑において、クロアチアの優れた作家の作品を集めたグラフィックアート展を開催した。

開催初日には、ドラゴ・シュタンブク駐日クロアチア大使にご来苑いただき、アート展をご観覧いただきとともに、茶室夕庵で早茶を楽しまれました。



# 本の情報

梅原猛名誉村長著書

●朝日新聞社

## 神殺しの日本

反時代的蜜語

# お知らせ

## 名誉村長特別講演会

梅原猛哲学たいけん村名誉村長の講演会が開催されます。

## 演題 「能と世阿弥」

日時 平成十八年十月二十九日(日)  
午後二時から  
場所 碧南市芸術文化ホール  
入場 無料(要整理券)

# 後期哲学講座

## ▽メインテーマ 「ニヒリズム」

二十世紀ヨーロッパの思想の形成には、ニヒリズムという思想状況が大きなかかわりを持っている。すなわち、現代の哲学は、ニヒリズムとなんらかの形で対決を余儀なくされることを通じて、生まれてきたと言つてもいい。今回の講座では、このニヒリズムという思想状況、その基本的構造、そしてニヒリズムからの脱却の試みについて考えてみたい。

(無我苑顧問 久野昭)

### ▽日程

- ①十一月十一日(土) 「思想状況としてのニヒリズム」
- ②十一月十八日(土) 「ニヒリズムの基本的構造」
- ③十一月二十五日(土) 「ニヒリズムからの脱却」

※時間は各回とも午後二時から午後四時三十分まで

- ▽場所 無我苑研修道場
- ▽講師 無我苑顧問 久野昭
- ▽受講料 千五百円(三回分)
- ▽申込み 十月二十四日(火) 午前十時から受講料を添えて無我苑へ直接お申込みください。

## 平成18年度涛々庵茶会・三曲演奏(後期分)

月 日	涛々庵茶会		三 曲 演 奏	
	席 主	流 派	箏 曲	尺 八
10月22日	小沢わさ子(宗和)	松尾流	永坂会	竹秀会
11月26日	磯貝 勝代(宗代)	裏千家	祥友会	竹秀会・祥友会
12月17日	小笠原英美(宗文)	久田流	若草会	竹秀会
平成19年 1月28日	山田 昇(宗昇)	裏千家	絲音会	竹秀会
2月25日	杉浦 とめ(宗登)	久田流	永坂会	竹秀会
3月25日	小笠原 利(宗紅)	裏千家	若草会	竹秀会

# 涛々庵茶会・三曲演奏

# 来苑者の声(アンケートより)

哲学者の言葉の意味をひとつひとつかみしめて理解できるようになればと思います。

(高浜市 男性 二八歳)

ボディソニックはヒーリングミュージックに映像がついて、観光地にいったような気分になって、帰りたくなくなりました。すき間のある空間、余韻を感じられるだけの時間って気持ちのいいものです。機会をつくって、また来ようと思います。

(岐阜県 男性 四四歳)

何年かぶりにひとりで心静かに開放された気分です。とても楽になりました。ありがとうございます。

(西尾市 女性 四二歳)

